

令和4年度防府市総合教育会議議事録

1 開催日時 令和4年12月20日(火曜日) 午後1時30分

2 開催場所 防府市役所 1号館3階南北会議室

3 出席者

防府市長 池田 豊

防府市教育委員会

教育長 江山 稔

委員 小松 宗介

委員 村田 敦

委員 田村 純子

委員 温水 祥代

4 会議に参加した者

学校教育課長 荒瀬 淳子

学校教育課主幹 藤井 学

学校教育課長補佐 足立 衛

学校教育課指導主事 西村 淳

生涯学習課長 金子 照

地域交流部参事 瀬川 博巳

(文化・スポーツ課長)

5 会議に従事した職員

教育部長 高橋 光男

教育部次長 石丸 典子

教育総務課長 松田 伸一

教育総務課長補佐 岸野 恵美

午後1時30分 開会

○教育部長 それでは、定刻になりましたので始めさせていただきます。

皆様、本日は、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

ただいまから、令和4年度防府市総合教育会議を開催いたします。私は、本日の進行を務めさせていただきます教育部長の高橋でございます。よろしくお願いいたします。

初めに、防府市長より御挨拶を申し上げます。

○市長 教育委員の皆様方におかれましては、御多忙の中、総合教育会議に御出席を賜り本当にありがとうございます。

私は市長になって以来、5年目に入りましたけれども、毎朝、子どもたちを見送っている中で、子どもたち、特に義務教育の子どもたちについては平等でありたいという強い思いを持っております。

そうしたことから、市長になって以来、エアコンの一斉整備やタブレットの一斉配備等を平等にやってきた中、来年の4月からは、小学校1年生全員に新たな通学用かばんを贈呈することといたしました。安全安心と、みんなが同じ思いを持つという意味を込めてお贈りさせていただくということで、教育委員の皆様にもお力添えを賜りましたこと、心から感謝を申し上げます。

こうした中、今週の日曜日の全国中学校駅伝大会では、国府中学校が全国で4位、高川学園中学校が全国で16位という成績を上げました。国府中学校は、最初から最後までずっと先頭のほうを走りましたので、防府の名が、かなり全国に発信できたのではないかと考えているところでございます。

また、読売マラソンも大成功に終わり、今日、川内選手から手紙をいただきまして、川内選手の言葉で、「防府は福岡の上だったね」ということが書いてあり、「来年も必ず出ます」という返事をいただいたところでございます。

また、いろいろなクラブがある中で、市内の吹奏楽部も、松崎小学校が日本一になりましたし、全国大会で華城小学校も銀賞、桑山中学校も銀賞、防府西高等学校も金賞受賞ということで、子どもたち本当に頑張っています。

そうした中で、本日の総合教育会議では、部活動の地域移行を議題といたしました。防府市は大変レベルの高い中にあるわけですが、今後、これを永続的にしていくためには、地域を挙げて取り組まなければいけない課題だと思っておりますし、教職員の皆さんの負担軽減という観点からも、これから長く続けるために、現在の課題ではないかと思っております。

今日は、教育委員会から説明していただき、皆様方の御意見を伺いたいと思っております。子どもたちから中学校まで、地域を挙げて「スポーツのまち」「文化のまち」ということで、防府市を挙げてそういうものを支援できればなどと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

以上でございます。

○**教育部長** ありがとうございます。

それでは、本日の議題に入ります。

議長につきましては、防府市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定に基づき、市長にお願いします。

○**市長** それでは、ただいま申し上げた「部活動の地域移行について」ということで、議題とさせていただきます。

事務局のほうから説明をお願いいたします。

○**学校教育課西村指導主事** 学校教育課教育指導係の西村と申します。説明をさせていただきます。

本日は、主にこの4つの流れで説明させていただきます。「これまでの部活動」、「これからの部活動」、「部活動の地域移行に関する課題」、「部活動の地域移行に関する意向調査」という流れで説明いたします。

まずは、これまでの防府市の中学校の部活動は、個人、団体、スポーツ、文化面ともに全国でも活躍をしております。

特に、令和3年度中学校選手権大会では、多くの種目で県予選で上位に入賞し、中国大会、全国大会に出場しています。中学校駅伝大会では、国府中学校男子が県大会で優勝し、全国大会に出場しています。また、吹奏楽コンクールでは、華陽中、桑山中、佐波中が県大会で金賞を受賞し、中国大会、全国大会ですばらしい演奏を披露しています。

令和4年度についても、現在のところ、特に中学校選手権大会では、陸上競技、剣道、卓球、バレーボール、ソフトテニス等、県予選で上位に入賞し、中国大会、全国大会に出場しています。中学校駅伝大会では、国府中学校男子が県大会で優勝し、昨年度に引き続き、全国大会に出場しています。先日の12月18日に滋賀県で行われました全国大会では、男子は国府中学校が4位、女子では高川学園中学校が16位と大健闘しております。また、吹奏楽コンクールでは、桑山中学校が県大会で金賞を受賞し、中国大会、全国大会ですばらしい演奏を披露しております。

中学校部活動を地域部活動に移行するために、小学生に意向調査を実施しました。その際、小学生にアンケート調査を行うに当たり、中学校の部活動を知ってもらうことからはじめ、これからの地域部活動について説明しました。

実際に小学生に説明したプレゼン資料を紹介いたします。

中学校の部活動は、小学校のクラブ活動を、ほぼ毎日行っているイメージです。これまで中学校では、学校の中でその学校の生徒が、先生や外部の指導者とともに、スポーツや文化の活動をしていました。先ほど御紹介しましたような実績を維持し、さらにスポーツ・文化活動を推進するために、これからの中学校部活動は、地域部活動として、学校と地域が協力して行う活動に変わっていきます。防府市全体で活動を行い、これまであった中学校部活動の種目をはじめ、バドミントンなど、新しい種目も出てくるかもしれません。

活動内容として、いろいろな大会で勝ちを目指すもの、種目の技能を身につけるもの、仲間と楽しく活動するものなど、様々な目的があります。

活動場所は、防府市内の中学生が、市内の学校をはじめ、市の施設などを利用します。指導する人は、スポーツ少年団の指導者、学校の先生、いろいろな団体の指導者などです。

このように、防府市では、コンパクトなまちであるという利点を生かし、学校という枠をなくして、約3,000人の中学生が在籍する大規模中学校「防府中学校」の生徒が参加する部活動として、学校と地域が協働・融合した部活動、地域部活動を進めていこうと考えました。

図の中央の点線内にあるように、将来の地域部活動では、同じ目標を持った生徒が、地域の指導者の下で、市内の様々な施設を利用して活動できればと考えました。子どもたちはもちろん、様々な人の意見や考えを聞きながら、新たな部活動を運営していく形を整えていく必要があると考えました。

具体的には、防府市内の野球をしたい中学生に対して、校区は関係なく、Aチャレンジとして大会等で活躍したいクラブ、Bスキルアップとして技能を習得したいクラブ、Cフレンドシップとして仲間と楽しく活動したいクラブとして、それぞれを人数や活動場所等を考慮して、複数のクラブを立ち上げることとなります。その際のクラブは、民間のクラブ、公民館活動を含む既存のクラブ、既存のスポーツ少年団の中学部、新たなクラブの立ち上げ、中

学校部活動を母体としたクラブが想定されます。

中学校部活動を母体としたクラブでは、昨年度から実践研究校である牟礼中学校が該当します。牟礼中学校では、学校の部活動に地域指導者を派遣し、教員に代わって部活動の指導をしております。

吹奏楽クラブを例に、今後の方向性を説明いたします。

生徒たちは、校区に関係なく、「Aチャレンジ」大会等で活躍したいクラブ、「Bスキルアップ」技能を習得したいクラブ、「Cフレンドシップ」仲間と楽しく活動したいクラブというように、人数や活動場所等を考慮して、複数のクラブを立ち上げることになります。生徒たちは、活動場所、指導者、練習、必要経費等を考慮し、参加したいクラブを選択します。

吹奏楽以外にも、野球や陸上競技においても同様に、目的に応じたクラブを立ち上げ、様々な指導者の下、防府市内の場所で活動することを想定しております。特に週末を中心に、生徒たちが防府市内の笑顔満開通りアスピラート、三友サルビアホール、キリンレモンスタジアム防府市スポーツセンター、野球場や陸上競技場等、専門の施設を利用することができます。

ここで、実践研究校である牟礼中学校で取ったアンケートの一部を御紹介いたします。

牟礼中学校では、先ほど申しましたように、学校の部活動へ地域指導者に入ってもらい、教員に代わって部活動の指導を行っております。生徒から「一人一人にアドバイスをくださる」、「質問しやすく、専門的なことを教えてくださる」、「ふだんと違うメニューを教えてくださいなので、楽しく力が身につく」。また、教員からは「自分は競技経験はないが、地域指導者が専門的な視点で指導していただけるので助かっている」、「平日の練習のアドバイスをしてくださる」、「教師や生徒が意見を言っても、地域指導者がしっかりと話を聞いてくださる」という意見がありました。これは、専門的な指導力を持つ地域指導者が指導に携わったことで、子どもの充実感につながったものと認識しております。

これまで説明いたしました中学校部活動を地域部活動に移行することで、「防府市内のどの地域の生徒も様々な種目から選択できる」、「生徒が専門的な指導・助言を受けることができる」、「教職員の働き方改革につながる」、「防府市全体でスポーツ・文化活動を通じて交流が盛んになり地域活性化につながる」、このようなメリットがあると考えております。

それでは、ここで、別の資料の10ページを開いていただけたらと思います。表に「地域部活動実施要綱」と記載されている資料の10ページを御覧ください。

こちらは、山口県教育委員会が、スポーツ庁、文化庁をはじめ、様々な動きの中で、これまでの背景、趣旨、部活動改革の経緯等を示しているものでございます。

少子化の進行や学校の働き方改革が進む中で、部活動を学校単位で継続することが困難な状況が生じてきており、そのような状況の中で、国は、子どもたちが地域においてスポーツ・文化活動の機会を将来にわたって確保・充実できるよう、地域における新たな環境の構築を推進しております。下にありますが、スポーツ庁と文化庁において、地域移行に関する検討会議が行われまして、検討内容をまとめた提言が提出されております。

次に、11ページと12ページになりますが、山口県では、地域運動部活動推進事業において、拠点校における実践研究が進められる中、やまぐち部活動改革推進協議会で、その成果と課題の検証が行われています。

こうした国や県の動向や取組を踏まえ、本市におきましても、昨年度から牟礼中学校での

実践研究を行うとともに、防府市部活動改革推進協議会において、運動部、文化部を含めた新たな部活動の体制整備に向けた協議を重ねております。

それでは、スライドに戻ります。

令和4年度も、牟礼中学校で実践研究を続けております。運営主体をどこに置くかとともに、地域指導者の発掘、効果的な指導の在り方等、また、地域部活動への移行をどのようにしていくべきかについて考えているところです。

防府市部活動改革推進協議会で話題に上がった内容として、まず、費用負担があります。令和3年度は、国費等により活動等に必要な経費を賄いました。令和5年度以降は、必要となる経費を国費ではなく、受益者や自治体が負担することが想定されます。今年度と同じ支出額を牟礼中学校運動部に所属する生徒人数で割った場合、1人当たり年間1万5,000円程度必要であることが分かりました。内訳は、謝金、交通費、指導者や生徒の保険料等です。学校の管理下外の活動である地域スポーツ活動を実施する上で、保険への加入は欠かせません。その上で、今後考えていかなければならないことは、指導者への謝金、交通費の額は妥当であるか、あわせて、全てを受益者に負担させることができるのか、自治体やその他企業等による負担の可能性の有無、この辺りを考えていかなければいけません。

また、実践研究校で、指導者を対象としたアンケートの回答には、このような意見が挙げられました。「平日と休日で活動を完全に分けることができない」、「連携を取ることで、負担は増える」、「土日だけの移行で本当に働き方改革になるのか」などが挙がりました。この結果は、教師の働き方改革を推進する側面から考えると、休日だけでなく、平日も含めた部活動の地域移行にも着手する必要があると考えさせられるものでした。

また、先ほども御説明いたしましたように、活動場所は、防府市内の中学生が、市内の学校をはじめ、市の施設などを利用します。そのため、様々な課題が見えてきました。生徒の移動手段、学校施設の施錠、ボールや楽器等の備品の管理です。

最後に、小学生、中学生、教職員に意向調査を実施した結果を説明いたします。

中学1、2年生に「部活動でどのようなことを目指しますか」と聞いたところ、仲間と楽しく活動することが少し多いですが、試合に勝つことやコンクールで入賞すること、技能や技術を身につけることについても、同程度の思いがあることが分かりました。また、活動場所への移動手段としては、68%の生徒が自転車か徒歩と回答しており、32%の生徒は自家用車や公共交通機関が必要と回答しております。

また、市内の中学校の教員に対して、中学校部活動が地域移行された場合の土日について、「これまで学校ごとに実施されていた部活動が、土日等の休日は学校の枠をなくして、活動種目・内容ごとに合同で活動が実施されることになった場合、あなたはどうしますか」というアンケート結果です。全体の61%が自由に過ごしたいとの回答でした。いずれかの部活動に参加したいと回答した39%の中では、45%が指導者として、55%が手伝い程度の参加との回答でございました。

「これまで学校ごとに行われていた中学校の部活動が、土日などの休日は、通っている中学校ではなく、部活動の種目や内容ごとに他校の生徒と合同で活動することになったら、あなたはどうしますか」という質問に対して、市内の小学校3年生から6年生のアンケート結果では、全体の42%は自由に過ごしたいと回答しました。残りの58%は活動したいと回答し、その中で、「運動部、文化部のどちらがいいか」との質問で、79%が運動部、21%

が文化部の回答でした。

小学生が活動したい内容・種目名は、このようなものでした。

今後も、小学生、保護者、教職員に意向調査を行うとともに、スポーツや文化の各種団体に、現段階でのクラブ設立の意向調査及びクラブへの協力依頼に関する意向調査を実施してまいります。

中学校部活動を地域部活動に移行するためには、多くの課題があります。課題解決のために、本日は忌憚のない御意見をお願いいたします。

以上で終わります。ありがとうございました。

○市長 どうもありがとうございました。今、部活動の地域移行について説明がありましたが、恐らくなかなか難しい内容であって、様々な意見があると思います。

防府市の場合は、土日じゃなくて全部一緒にやるという方向のようですけれども、個人的に思いはすごくありますので、多分、やりながら考えていく感じじゃないかと個人的に思っています。実際に今、防府はコンパクトなのでいいんですけど、本当にこのままでできるかなと個人的には思っています。働き方改革というのもありますし、負担が生じるということが一番大きな課題じゃないかと思っております。

今日は総合教育会議ということで、今、説明を聞かれた範囲で、いろんなクラブ活動というか、小学校、中学校の中で何か御意見があると思いますので、その方向性というよりも、とりあえず感想になるかもしれませんが、御意見をいただけたらと思っております。

何か具体的な事例で説明できませんかね。これがこういうふうになるというような形で説明をしていただけると、まだ意見が出るのではないかと思います。どうぞ。

○小松委員 この中で、吹奏楽クラブの例というのがありますよね。Aは必要経費が年会費2,000円、月会費3,000円。BとCは年会費2,000円、月会費2,000円。2つの中で必要経費に差があるけれども、そうなってくると、これ、子どもたちに負担がかかってきますよね。あと、吹奏楽であれば、今は楽器とかほとんど学校の経費です。これが、例えば完全に地域に移行したら、学校が負担するのか、個人が負担するのか。それとも負担額を個人と市がいくらか出すとかになっていくのか。

また、せっかく今、いい成績を残している指導者が、本当に地域に移行したあとそのまま地域の方と一緒にできるのかどうか。よく指導する先生が変わると、そのクラブ活動が、がらっと変わって、まるっきり強くなったとか、弱くなったというのをよく聞きます。そういう点で、特に吹奏楽というのは大きな影響を受けると思います。今いい成績を残しているような陸上部も含めて、いい成績を残しているけれども、全面的にもう地域部活動として、あと3年以内に実際に変更しなきゃいけないのかどうか。それとも、学校にそれなりの指導者がいて、誰も文句を言う人がいなければ、そのまま学校で部活動として続けていっても構わないのか。そこら辺はどうなんでしょうか。

○教育長 まさにおっしゃるとおり、指導者で変わります。中学校部活動を母体としたクラブであれば、自分は〇〇中学校にいて、そこに部員がいるわけですから、そこに新しい誰か指導者をもって来るか、自分が地域部活指導者になれば、そのまま継続ができるということになります。だけど、その人が異動したときに、それが抜けてしまったら継続性がないので、この中で言ったらA、B、Cとありますけれども、防府の場合は吹奏楽が盛んなので、Aというと、いい演奏者が集まって、実際に結構限られるので、そこが悩みの種です。また、

1つのクラブに50人、60人集まって、果たしてそれが成り立つかということもあります。

それから、楽器の件については、今は学校が負担していますから、もしも地域部活動でやるのなら、楽器を借り上げるか、さっきあったように、古くなったら市のほうで、あるいは、そのクラブで用立てることになります。

○小松委員 今後の課題として残ると。

○教育長 はい、そうです。

○小松委員 要するに、各団体、個人によって、また、あるいは指導者によって必要経費が変わってくる可能性があるかと。

○教育長 それはクラブだってあると思います。そこを平等にしようと思ったら、逆に外から何かお金を入れたり、既にもう民間にテニスクラブやダンスクラブがあったりする中で、そこにお金を払って行っている人たちもいるので、平等にするときに、そこをどうするかというのがあります。その辺りは課題として残っています。

それと、今、陸上競技が、土曜日か日曜日に陸上アスレチッククラブといって陸上競技場でやっています。これは市内の中学生が集まって、個々でお金を払ってやっています。その辺りも学校の部活動の動きとしてあります。今後、登録制の問題もあるんですけど、そういったことでも、さっき市長が具体的にと言われていましたが、ちょっとした具体はあるのはあります。

○市長 なかなか難しいことだと思います。働き方改革があるので、学校の先生の人事異動にも影響がありますからね。

だから、指導力のある先生が地域を離れても、才能がある子が、その先生の指導を受けようと思ったら、地域クラブのほうがいいかもしれないということがありますし、今みたいに、中学校単位で頑張っているということであれば、今のままがいいということもありますし、両面あると思います。ただ、学校の先生の働き方改革ということもあるので、金額の面がありますけれども、それよりも学校の先生を実際どうやって動かすほうが大変だと思います。

この間から言っているんですけども、防府市内の子どもが、どこに行ってもいいから、将来、甲子園に行つてほしいなという思いを持っていますが、防府市内のどこにいても子どもたちが同じことをできるという、いい面を取るのか。国府中学校が全国中学校駅伝大会で4位になったように、せつかくこれだけレベルの高い部活もあるし。クラブをやっている子、やっていない子、いろいろあると思います。

さっきアンケートにあったように、勝ちたいという子どもと、そうじゃなくて仲良くやりたいというニーズもまだあると思うので、これからまた紆余曲折あるんだと思います。

温水さん、何かありませんか。

○温水委員 すごい大改革だと思います。チャレンジコースで大会とかで頑張りたいという子もいれば、みんなで和気あいあいやりたいという子もいて、モチベーションが同じ子たちが集まったチームのほうをやっぱりうまくいくような気がします。

子どもの希望を聞き分けてやるようになると、例えばフレンドシップでやりたいと思って入ってみたけど、実際やっぱり何か違うな、もっと挑戦したいなと思ったときには、移動は可能なのでしょうか。

○教育長 それは可能になると思います。集まってやってみたら、思っていたのと違っていたということはあると思います。だから、その辺は、私たちがいろんな団体の方と話をすると

きには、1年目の途中での移動は、ある程度「有り」にしてくださいとお伝えしています。ただ、やっぱり移動する場合には、そのチームへの登録料みたいなものが発生することはあるかもしれないけれども、そういった形では自由にしたいと思っています。

○市長 村田委員、どうぞ。

○村田委員 地域クラブ活動に移行した場合、その活動というのは、学校の教育活動の中になるのか、それとも完全に独立した形になるのでしょうか。

○学校教育課長 学校の教育活動から独立した形でと考えております。

○村田委員 そうしますと、クラブ活動の運営団体とか様々な団体があつて、当然、組織も違いますし、運営方法もみんなばらばらになりますよね。そういった指導の品質を保つためには、誰かが管理をしなきゃいけないと思いますが、教育活動ではないということになると、教育委員会が関与しないことになるんですか。

○学校教育課長 いずれは、教育委員会から違うところということでは考えています。クラブ管理事務局というのを置きまして、そちらのほうで登録していただいたクラブについて管理をしたいと思っております。あまりにお休みがなく、無理をさせるようなクラブであつては難しいと思いますし、子どもたちが安心して活動ができるようなクラブになるように、クラブ管理事務局で全体を見てまいりたいと思っております。

○村田委員 やはり品質の保障というのはすごく重要なので、これはある程度、統一した強制力を持った、そういう指導ができる組織が必要となってくると思います。そういった管理ではないけれども、それこそ誰でも自由にやっていたいというふうにはいけませんし。あと、さっきもちょっと話が出ていましたが、個人的な習い事との差はどこにあるのか、そうした問題も出てきますので、だから、その辺をもうちょっと注意する必要があるとは思っています。

○小松委員 もし、教育委員会が関わるのであれば、ある程度、資格を持っている人限定というか、若しくは、ある程度の教育的なスキルを持っているかどうかなど、そういうちゃんとした許可制というか、そういうのがあったほうがいいのではないかと思います。私は、教えるのが好きだからと言って、どんどん勝手に始めて、それで、例えば体罰が起きたりとか、いろんな問題が起きたりしたときに、どう対処するのかというのも課題として残りますよね。そういう意味では、きちんと審査して認めましょうというのは、市として、もしくは、教育委員会としてやったほうがいいと思います。一番いいのは、もう資格をちゃんと持っている人がやったほうが手っ取り早いとは思いますが。

○教育長 スポーツ団体の会議等で話をした中で、やはりある程度の規定を持って、登録に当たっては、資格を持った人が最低1人はいること、それから、その競技団体とちゃんと連携が取れるというのが大前提になると考えています。団体全員がその資格を持てと言ったら手伝える人がいなくなるから、資格を持った人が1人責任者がいて、その下に指導者がいて、その人たちもなるべく資格を取ってくださいという、そういった規定の中でスタートさせるというふうに、今、団体の会議でも意見が出ています。さっきのように、誰でもできるとはいかないので。ただ、全員が資格を持てというふうにあんまり厳しくすると、人が集まらなくて止まってしまうので。

○小松委員 それこそさっき言ったように、あくまでも認可というか、今、言われたように、資格がない人は指導者としては認められませんというふうに、そのぐらいはやっておかない

と困りますよね。

○市長 どうぞ、村田委員さん。

○村田委員 これも先ほど皆さんがおっしゃられたことですが、今、学校の部活というのは、いろんな地域や学校でやっていますよね。でも、学校と切り離れた形で団体がやるということになると、その費用はどこが管理するのか。それともそれぞれの団体が独自にやらないといけなくなるのでしょうか。

○教育長 希望は団体独自になりますけれども、ただ、平日も休日も、会場は学校が使えます。だから、その学校にある備品などは話合いによって使えるようになる。そうでないと、バスケット部を始めた人が、ボールから全部そろえるのは到底無理です。だから、ある学校を母体にして進めれば、そこにあるものが使える。あとは指導者の謝金なんかは個人の負担になる。

○村田委員 そうしたら、学校がクラブ活動をしないということになれば、予算というかそういった物をそろえるというのは可能なんでしょうか。

○教育長 予算上でいえば、学校の体育の教科であるものについてはそろえられるけど、クラブにしかない競技の団体が、学校を使うからといって、学校と合同でそろえるというのはないですね。だから、クラブのほうで場所と物品を用意するようになると考えています。

○村田委員 そうしますと、それは全て生徒の個人負担ということになりますよね。それを管理し切れますかね。

○市長 多分、国のほうがこの制度をやっていますので、おそらく地方財政措置といった場合、国は3年間かけてやっていくことになっているので、一気にはならないと思いますけれども、おそらく行政がある程度負担していく形になると思います。方法については直接持つのか、クラブに対する支援になるのかはこれからになると思いますが、これから3年間かけて国はその方向でやっていくと思いますので。

また、今は教員の時間外手当も出ているわけですから、おそらく今、クラブ活動に金をかけているものは、全体の予算をそっちにシフトする形になるのではないかと思います。そういった面でも、国がある程度負担するようになるのではないかと思います。各地域によって状況はばらばらなので。

防府は、教育長が頑張ってもらって先頭を切っていますけれども、そうした中で、多分制度ができていくのではないかと思いますし、市としても、今よりもこの制度にすることによって、個人個人の負担が増えないようにしていかなきゃいけないと思います。また、その方向でないと、なかなか地域クラブ活動に移行できないと思うんです。それは心配しなくていいですから、さっき言ったように金のほうじゃなくて、子どもたちのために良くなる制度をつくるのが先だと思いますので。

ただ、個人的には、防府の場合は、さっき言ったように、吹奏楽も日本一を取ったりすごいレベルで、運動部もレベルが高い。だから、昔は勝っていたのに、最近勝てなくなったというのが、現場としては多分一番きついのではないかと思います。弱いところだったら、「一緒にしたら勝ち始めた。よかったね」になりますけれども、防府は今、どの競技もトップレベルだから。これによって勝てなくなったとかいったら、そっちのほうが心配です。ただ、予算措置については、防府だけの問題じゃないので、おそらく国が負担していく形になるのではないかと思います。市としても、そういうものにはしっかりと対応したいと思っています。

す。それよりも、現場がうまく移行するほうが最優先だと思いますので。

どうぞ、田村委員。

○**田村委員** 3, 000人の「防府中学校」の提案ですね。私は、個人的には賛成ですけども、今あったように、自分でクラブを選んで、自らそこに入って行って学んでいくという形ですが、やっぱり目に見えない力を養うところが部活動であるし、頑張る力とか、創造性とか、そういったことがきちんと指導的な視点を持って指導できる指導者がいらっしやるのか。また、問題が起きたときに即対応できる、スピーディーな対応ができるような体制ができているのかが気になっているところです。

先ほど課長さんのお話では、クラブの管理事務局のような組織をつくりたいというお話でしたが、そこに何らかのコーディネーターがいれば、その人が動けばすぐ学校と保護者とをつなぐことができるので、そういった緊急対応にも動けるようにしておかないと、一度ボタン掛け違えると、大きな問題になって、せっかく頑張っている子どもたちが、反対にトラブルに巻き込まれるようなことがあると困りますね。

○**教育長** 中学生のアンケートを取ったときに、地域部活動になったら何が不安かといったら、トラブルが起きたときに誰が解決してくれるのかというのが結構出ていて、それがすごく多いです。

今、田村委員が言われたように、クラブ管理事務局をつくって、そこには元校長や体育の教員などを入れる。そこで、何かクラブで起きた時には、学校と連携したり、問題が起きないように、そのクラブへの指導もしていく必要があると思っております。

○**市長** 温水委員。どうぞ。

○**温水委員** 中学校の部活から離れるということで、成績表に部活動の成績みたいなものが載っていたと思いますが、それはもうなくなるのですか。

○**学校教育課長** 調査書の中に、中学校の部活動の記録について詳細に書いていましたが、この在り方についても、国の検討会議のほうで変わるということになっています。自分たちが、どんな活動をしてきたかというようなことを、入試の段階で本人から話すような場面もあります。調査書の中に詳細に書かねばならないとなると、教員がクラブ等の指導者から別の聞き取りをしなくてはならないということになりますので、難しい形にはしないという方針があります。

○**田村委員** 大改革なので、保護者も教員もかなりの意識の変革を行わないといけないと思いますが、防府モデルでこの取組をしっかりと協議を重ねていって、先生方の働き方が気になりますけど。

○**教育長** 先ほどの調査の中で「土日、移行したらどうしますか」との質問の中で、約40%はなんらかの形で関わると。それから、60%の人は自分の時間を持ちたいという回答でした。これは1回目の調査ですので、これからもうちょっと具体化してきたときに、もう一度どうしますかということで聞いてみたいと思います。でも、調節したらまた意味がないので。

ただ、土日、時間があるから手伝ってもいいよという人がおられたら、やっぱりしっかり関わってもらえると、これは中学校の教員だけに聞いていますから、今度は小学校の教員にも、こういったのがありますけど、どうですかという形で聞いて、先生方も入れるようにしたいと思います。

○**小松委員** 今まで部活動が嫌だった先生が引き受けますかね。今までは、先生方が部活動を

やりなさいと任せられるでしょう。でも土日は費用が出ないからやりたくないとか、時間もいっぱい取られてしまうし。今度は、平日と休日と分けて考えていくことになる、ひょっとしたら、関わるのが嫌かなと思って、やらなくなるという人が増えてくるのではないですかね。

○**教育長** それはあると思います。今までは中学校の教員の立場でいうと、みんな教員になったら、部活をみんな受け持ってねと言われてお願いされます。だけど、地域部活動になったら自由に考えていいよとなって、できるだけ手伝いたいという数字がさっきの40%の方になります。だから、残りの60%の人を責めるのではなくて、40%の人たちができる分です。やりましょう。60%の人は気になったらどうぞという感じで。そこでまたやってくださいとなると、働き方改革は全然関係なくて押し付けになってしまう。

それともう一つは、今まで、自分の経験があろうが無かろうが、この学校にサッカー部があるから受け持ってとなっていたのが、今度は自分が好きなものあれば手伝ってねということになります。

○**小松委員** それで教育の一環じゃないとなったら、評価というのは全然関係ないわけじゃないですか。給料に反映されるとか、将来的に地位が上がっていかないと。そういったものを考えたら、人がやらなかったらやっていたほうがいいかなとか。だから、どこら辺まで責任持てるかになりますね。完全な指導者がいるわけじゃないですか。お手伝いで本当に一人ずつ親身でできるか。それも評価に全く関係なかったら、永続してできるかどうかというのは考える必要がある。また、スポーツ少年団とはどう区別されているのか。それとは全く同列になっていくのか。

○**教育長** さっきの資料の中にありましたが、既存のスポーツ少年団の中学部も同列になる。

○**小松委員** 同列に。

○**市長** でも、場合によっては学校の先生で、自分はバスケットやりたいけど、学校の部活にバスケット部がないからできないという先生がいらっしゃったら、地域クラブがあれば、そのほうでずっとやれるからいいのかもしれないなとか思ったりしました。

○**小松委員** 学校の先生って、私たち一般市民から見たらすごい人だとやっぱり思うんですけど。私の子どものときからの感覚では。

だから、本来ならばやれなくても頑張っ、自分が指導したチームを強いチームに変えていくんだということで、勉強しながら子どもたちと一緒にやっていって、それで勝っていくことが楽しいと感じて、子どもたちも成長する中で、また教育活動にいろんなものが生まれてくる。子どもたちも、中学校になって少しずつ大人に近づいて、また違った面でいろんなものを学んでいくというのも、授業だけじゃなくて、クラブ活動を通して学んでいく。

これが今度、仲良くするクラブと技術向上のクラブとトップを目指すチャレンジとなったらうまくいくのかなと思って。

○**市長** 非常に難しいと思います。まだ防府の場合はコンパクトだからこういうことができるけど、これが大きい市であったら面積的にどうやってやるんだろうと思って、こういう議論もまだできないのではないかと思います。その地域、地域でまた考えなきゃいけないです。その点、防府は今、小学校のスポーツクラブが盛んだから、まだほかの市よりはやりやすいのではないかなとは思っていますけれども。

それと、大改革なので、10年、20年経ったら当たり前になってきているのか、途中で

「やっぱり無理だったか」となるのかは分かりませんが、小学校のクラブ、また中学校になって全国大会がある中で、頂点を目指す子どもたちの私学とかあるわけですし。非常に難しいと思いますけど、子どもたちがそれでいいのかということですよ。今まででしたら、自分の中学校で〇〇部をやりたいと思ってもできなかった子が、ちょっと自転車でよそまで行ったらその指導を受けられますよというように、いいような解釈になればいいと思いますね。逆だと困りますけど。

この改革が、みんなが平等でやりたいことをやれると。吹奏楽でも〇〇先生の指導を仰ぎたいけど、校区を変えないと受けられなかったけれども、今度は、やろうと思ったらその先生の指導を仰げるというような。それをメリットとして発信していくんではないかなと思います。そういう本当にやりたい子どもたちができますよと。Aのトップレベルの部活には無理してでもいい指導者を置いて一流の選手を育てていく。仲良しグループというのは地域で集まってできるのかなって思いますけど、少子化の中でニーズがいろいろABCとあって、それがいい方向になったというようにしないといけないと思います。

こうやって国が方向を出していて、それを防府だけが違うことをできませんから。そうした中で、この制度を、防府市のクラブ活動や部活動をいい方向に持っていく。教育長も頑張っていると思いますけども、それを先頭切って、最初にほかではなくて、防府の理想論をおいにかけていくのが一番いいのではないかと思います。

○小松委員 問題点があったら、やはり原因があるわけですよ。原因を解決していくのにこれから3年間あることだから急ぐこともないと思うけど、やっぱり全体が上がっていくように、みんなが共通の問題点として捉えて解決していく。そうやっていかないと、なかなか全体がうまくいかない。

○市長 また、市によって違うかもしれませんね。こういう地域クラブに向いている競技と、向かない競技とか。またやりだしたら分かると思います。

○小松委員 みんなで話し合っ、問題点を解決していくんだと。必ず解決していくんだという強い思いをもってやったら継続するんじゃないですかね。

○市長 防府の場合は、幸いにもいろいろなクラブが強いので、地域と学校と一つになってやっていかないと。責任が、向こうこっちじゃなくて、一緒になってやっていく中で、皆さん地域になったら共通のことでまた考えればいいのかと思います。逆にいうと、特定の学校より地域になったほうが行政として支援がしやすくなるかもしれません。それで、国も制度を考えるのだと思いますけども。

○小松委員 教育から離れたら、教育委員会じゃなくて市長部局になるのですか。

○市長 これを出しているのは文化庁とどこでしたかね。

○教育長 文化庁とスポーツ庁です。

○市長 スポーツ庁は文科省でしたよね。権限をほかの省庁に渡すことはないと思うから教育委員会が基本だと思いますけど。いずれにしても、事務局は市になるので、そういう面で今日は市長部局も来ていますけれども、一緒になってやっていかないといけない。

村田委員。どうぞ。

○村田委員 地域クラブは、その地域の住民だけになりますか。その自治体を越えて参加することは可能になるのですか。

○教育長 その人が、離れていても来るってなると、そのクラブの方針として、駄目とは言え

ないと思います。特に、境目あたりの方がどっち行くかというあたりもありますし。学校から離れるわけですから、それはいいよとなると思います。

○**村田委員** 例えば、スポーツクラブとかになると、比較的全国から集められたりしますよね。ただ、そういったところを同等の団体として認めていくのか。やっぱり技術が高くなってくると、あっちの隣の町のほうがいいかなって、そういった人たちも出てくると思います。そういう意味である程度ルールがないと、やっぱり上手く機能していかないのかなと思います。

○**市長** 仲良しグループのところならあまり関係ないですけど、トップレベルのところはそういうような形にしたいなと思っています。そうしないと、子どもが越境して通うことになるので。

○**小松委員** 高校などは、既にもう現実にそうなっていますよね。

○**市長** 国としたら、スポーツ力を向上させていかないといけないでしょうから。いずれにしても、新年度から、全国上げてやることになるわけなので。

また、施設面でいったら野球場もありますし、陸上競技場もあるし、ソルトアリーナもありますけど。そうすると市長部局とも一緒になってやっていかないといけないと思うので、場合によってはそういうものも踏まえて、3年間で見直しをかけていくことも出てくるのではないかと思います。そういう面で、施設整備の在り方もまた変わってくるかなと。その地域クラブになると、武道館とかもありますけれども、その競技はそこでやりますという、施設の改修など、そういうことも出てくると思います。

市長部局においても、大変大きな改革になると考えています。

そろそろ時間になってまいりました。教育長、最後に。

○**教育長** これからもしっかりと、いろんな意見をお聞きした中で、取り組んでいきたいと思っています。

○**市長** それでは、今日は中学校部活動の地域移行ということで、御意見を聞かせていただきました。

新年度から始まるということで、今後どうなるのか少し分からないところもありますが、少なくとも子どもたちにとって、この改革がいい方向の改革であってほしいと思っています。この方向でしっかり教育委員会と一緒に取り組んでいきたいと思っていますので、引き続き、教育委員の皆様には御指導を賜りますようお願いして、閉会とさせていただきます。事務局にお返しします。

○**教育部長** 本日は、貴重な御意見等を頂き、ありがとうございました。

以上で、令和4年度防府市総合教育会議を終了します。

本日はありがとうございました。

午後2時30分 閉会